講義名	芸術事業論					授業形態	
担当教員	相澤　孝司	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 １時限				
		単位数	2	履修開始年次	２年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

本講義では、事業活動や経済活動を実施する時に、芸術がどのような存在意義をもつのか、具体例をまじえながら解説していきます。
　芸術活動は、経済や社会から一見かけ離れたところにあり、特殊な活動のように思われがちですが、実は極めて重要な要素であり、むしろ事業活動の中心になることが理解されるでしょう。
　しかし、芸術は知識として理解するのでは無く、自身の感性の中に育てる心が必要です。たぶん学生のみなさんの中には、すでに持っていると考えられますが、本講義を受講して興味を持って育てて下さい。
　芸術性のある事業のあり方を学習し、「デザイン」についても正しく理解しましょう。

到達目標

1-デザインの発生を歴史から学習し、デザインと事業活動や経済活動が深く結びついていることが説明できる。
2-芸術とデザインに関心をもち、積極的に展覧会やアートイベントなどに出向き、自分自身の感性を磨けるようになる。
3-観光産業とデザイン及び芸術との関係は特に深く、直接的なつながりも多くあることが理解できる。
4-デザインの発想法を学び、企画・商品開発などにつながるアイデアの提案や展開が出来る様になる。
5-対面による指導にもと簡単な方法で立体物を描く方法を学習し、企画会議・アイデアの内容などコミュニケーションの幅を広げることが出来る。

提出課題

特になし

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

中間レポートの解答者から約10点程度選抜して次回の授業以降で内容を紹介します。

評価の基準

評価は、中間レポート及びレポート試験を主な評価基準とします。第7週目の中間レポートでは、デザインについての理解度を確認することを評価の基準とし、第5週目頃からレポートの課題を告知します。
最終のレポート試験では、地域社会のデザインに関連する課題を提示します。その内容の捉え方や視点を基準にして、本講義における芸術やデザインについての理解度及びの地域社会への展開方法の発見などを総合的に評価します。

履修にあたっての注意・助言他

デザイン・芸術に関する予備知識がなくてもぜひ受講して下さい。授業では、スライド及びDVDなどのビジュアルを中心に解説します。

教科書

・使用しない.				

参考図書

・「日本デザイン史」.	竹原あき子・森山明子	美術出版社		
・「世界デザイン史」.	阿部公正	美術出版社		

その他

授業計画

1.芸術事業論の考え方、授業内容の解説及び評価方法
2.環境芸術について・「六甲ミーツアート」の事例紹介と地域活性化とアートプロジェクトの解説
3.都市空間と芸術について・神戸における夜景とは「1000万ドルの夜景について」
4.色彩にみる芸術について・カラーデザインの事例紹介「船体のカラーデザインと目立つ色」
5.芸術と技術・デザインの発生、デザインとは
6.日本のデザインを考える。デザインと産業について、グッドデザインとは
7.中間レポート「グッドデザインを探せ」
8.日本のデザインを考える。デザインと照明について
9.日本のデザインを考える。デザインと環境について
10.世界のデザイン「イタリアと北欧のデザイン」
11.イベントと芸術について・博覧会にみるデザインと芸術
12.芸術事業のあり方「デザインと発想法」企画に役立つアイデアのヒント
13.芸術事業のあり方「イサム・ノグチについて考える」アーティストの遺作はデザイン。
14.芸術事業のあり方「レオナルド・ダ・ビンチについて考える」
15.芸術事業論のまとめ「小林一三のグランドデザインについて考える」

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習
次回の授業に関係するデザインなどのキーワードを数点告知するので、その内容をインターネットや図書館で調査してください。約1時間程度
復習
毎回授業の初めに、前回の授業内容について簡潔に説明します。また、授業の中で重要なキーワードを提示しますので、自身でも説明出来る様にしてください。約1時間程度

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

観光事業における芸術及びデザインを理解することで（1）デザインの発生を歴史から学習し、デザインと事業活動や経済活動が深く結びついていることが説明できる。（2）芸術とデザインに関心をもち、積極的に展覧会やアートイベントなどに出向き、自分自身の感性を磨けるようになる。（3）観光産業とデザイン及び芸術との関係は特に深く、直接的なつながりも多くあることが理解できるなどのキャリア形成過程の芸術・デザインの基礎知識として有効となる。また、観光産業における芸術・デザイン知識は、商品企画などのアイデアの展開に活かされる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」照明器具メーカーのデザイナーとして多数のデザインの実績があります。また、地域イベントのプロデューサーおよびアートディレクターなども経験しており、本講義内で具体的な事例をまじえて解説します。

備考

通学困難学生への対応は、欠席した期間の授業を限定公開のYouTubeで視聴してもらいます。欠席の連絡を確認した後に該当学生とメールにて、YouTubeのアドレスの提示及び資料を添付します。後日視聴したYouTube授業の内容と感想をメールにて提出となります。